

環境健康研究分野(総合)

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- 限られた研究者で実証研究と疫学研究を核に、個別研究成果が多く見られる。[年度]
- エコチルのリクルートが目標に達して、計画通りのスタートが実現できたことで、関係者の努力が高く評価される。[年度]
- 分野横断研究に積極的に取り組み、新しい実験的研究成果が出されている。[年度]

今後への期待など

- 余程特殊なことが起きないかぎり、非常に重大な影響を与えるような化学物質への曝露の可能性が低くなった現時点で、今後、疫学研究のあるべき姿の模索を始めるべきではないか。[年度・見込み]
- 環境健康研究領域が重要な分野であることは言うまでもないため、より体制充実に繋がる取り組みに期待。[見込み]
- エコチル調査では、生後1ヶ月までの生体試料収集数が示されていて順調に進んでいると思われるが、1ヶ月以降の生体試料並びに環境試料の収集計画を示して欲しい。[見込み]

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 個別研究の成果を総合化する取り組みも進めたいと思います。
- ② リクルート目標を達成できたことを基盤として、研究成果を国内外に発信できるように、今後も関係機関と協力しながら、エコチル調査の統括を行う機関としての責任を果たして行きたいと思います。
- ③ 環境疫学研究の成果を上げるためには今後も分野横断研究が必須であると考えています。実験的研究で得られた成果についてその機構解明に組み込み、成果をあげられるように研究を進めます。
- ④ 化学物質の健康影響の大きさについて、環境疫学では相対リスクの観点から表現することが多かったと思います。今後は、人々の健康・疾病に関わる種々の要因を含めたモデルの中で、化学物質の絶対リスクが表現できるようなアプローチが必要であると考えています。
- ⑤ 他研究領域との連携や人材育成など、長期的視野で研究体制の充実に努めたいと思います。
- ⑥ エコチル調査の全体調査では、生後1ヶ月から6歳までの間は生体試料・環境試料の収集は計画されていません。6歳以降についての具体的な検討を開始したところであり、その計画がまとった段階で報告いたします。一方で、全体調査参加者から抽出した5000人を対象とする詳細調査では、2歳、4歳で生体試料、1.5歳、3歳で家庭環境試料の採取を行います。